

はじめに感謝！

はじめての腹部エコーの書籍をご購入いただいた方から、とてもたくさんのお褒めの言葉をいただきました。ありがとうございます。

とても わかりやすく 読みやすい
どうして、こんな簡単なことに気付けなかったんだろう
気づいていなかったこと わからなかったところがわかってきた
表現が実際の日常生活に例えられていて、とてもうなずけることが多い

等々、予想以上の反響に驚きました。書籍を読んでもくれたあなた！に感謝いたします。
そして、もうちょっと踏み込んでみて、遠方にお住まいの方にも 「くりさぽ！」のセミナーを書籍を読むことによって、「受講した」とまではいかないでも、少しでもそれに近づけることはできないか？ という思いでこの「ステップアップ編」を書いてみることにしました。

しかし、紙面に立体である臓器や、動画である時間軸。プローブの力の入れ具合などを表現するのは容易ではありません。

いつものように「あなた」と呼びかけるように内容を進めていき、生活シーンや練習方法なども 例えながらわかりやすく表現したいと思います。

あなたは音楽を聴くのは好きですか？

私はとても好きです。

エコーも同じ音。音楽を聴くような感性で音を聞く（見る・観る・診る・看る）ようにしてください。

この、ステップアップでは実際にプローブを握ってみることになるでしょう。

そう。あなたは、楽器を奏できるようにエコー（音）を操れることになるんです。

想像してみてください。あなたが奏でた楽器で素晴らしい音が繰り広げられるのです。

ワクワクしませんか？

そして、何度も言います。これだけは絶対に譲れないんです。

何故なら これが全てだから。

エコーは面倒臭がると下手になります。

エコーは患者さんのことを思うと、とっても上手になります。

これだけでいいんです。

さあ！ 肩の力を抜いて 楽しく読み進めてください。



好きな場所に座らない！

あなたは、車を運転しますか？
運転しなければ自転車に置き換えてもらっても構いません。

車の座席が（サドルの高さが）10センチずれていたらどうでしょう？
運転しにくいですね？

では20センチでは？
運転できないですね。

患者さんに「ここに寝てくださいね」と、枕を指さしても、ピッタリ同じ場所にはなりません。寝た後に、自分の頭に枕を置きなおす人だっています。

エコーをする殆どの方が、不思議と装置の前に座ります。もちろんそれでよいのですが、装置に合わせて座って結果、無理な姿勢で検査をすることになる。装置を診るのでしょうか？

違いますよね。
患者さんを見るはずです。まず患者さんの寝る場所を確認して、アプローチする場所がどこなのか。
アプローチしやすい場所に座って、その後に装置をコントロールしやすい場所に移動させてください。

もちろん患者さんに自分のやりやすい場所に移動してもらうのもよいでしょう。しかし、おなかのエコーを撮る人は、おなかの痛いから撮る人も多いはず。あなたが移動するのが望ましいでしょう。

検査が始まると、画面に夢中になるのは仕方がないのですが、殆どの方が装置に合わせてます。
装置より人間の方が偉いはず。装置に合わせる必要はないです。



では次の写真（プローブの先端が見えるように、いつもより高い位置を持っています。）



このように、プローブマーク方向に、振り子のようにプローブを動かす動作を「振り子走査」と言います。実際にやってみると、画像が左右に揺れているような感じがすると思います。